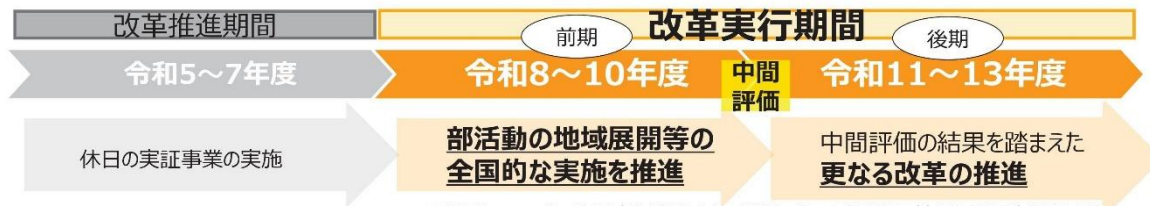


## 令和8年度 学校部活動地域移行(展開)事業計画

国は令和8年度から「改革実行期間」と位置づけ、部活動の地域移行から「地域展開」を全国的に推進。

- ✓ 学校単位で部活動として行われてきた**スポーツ・文化芸術活動を地域全体で関係者が連携**して支え、子供たちの**豊かで幅広い活動機会を保障**。
- ✓ 「**地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。**」という意識の下、**地域の実情**に応じ**スポーツ・文化芸術活動の最適化**を図り、**体験格差を解消**。



※休日については、改革実行期間内に、原則、全ての部活動で地域展開の実現を目指す

本町の取り組みは、国の動向に先駆け、すでいくつかの先行事業に着手しているため、「改革実行期間」における国の支援にマッチしている。これまで、先行移行したサッカー及びバドミントンの地域クラブ活動を安定的に運営し、「認定クラブ」として展開可能な種目に目を向けるために、令和8年度は、国や道が示している重点課題に対応した地域展開を進めたい。

- ・「平日も含めた地域展開等の加速化のための重点課題への対応」

### 平日も含めた地域展開等の加速化のための重点課題への対応 ★

補助金

実現可能な活動の在り方や課題への対応策の検証等を行うため、**実証事業を実施**。

<主な重点課題>

- ・小学校体育専科教師等の指導者としての活用など多様な兼職兼業のモデル形成
- ・地元大学等との連携による指導・運営体制の整備
- ・学校施設の有効活用（指定管理者制度・民間委託等による管理効率化などを含む）
- ・平日放課後の地域クラブ活動の移動手段の確保 ・民間活力の活用等による持続可能な運営モデルの構築
- ・パラスポーツの推進及びインクルーシブな活動環境の確保 等



### ①民間活力の活用モデル

サッカー（利尻FC）においては、すでに地域指導者を中心とした協会スタッフが指導に加われるよう平日の夜間（18:30～20:30）に活動展開していることに加えて、バドミントン（鬼脇）においては、指導者が所属する民間企業の理解を得て平日の夕方に活動時間（16:30～）を設定している点は、国の重点課題である「民間活力の活用等による持続可能な運営モデルの構築」に合致している。本事例を「離島における企業の社会貢献と地域スポーツの共生モデル」として、民間企業が指導者の活動を支援する仕組みを計画に盛り込む。

中学生野球クラブ（ラグナルズ）を「民間活力活用モデル」として、教職員と地域指導者が協力し立ち上げた「教師に頼らない持続可能な運営体制（教員と地域のハイブリッド体制）」として計画に盛り込む。単一校の野球部として始動するには人数不足など難しい面があり、子どもたちの活動の場を絶やさないために、やむなくクラブとして立ち上げた経緯があり、その支援にあたっては、国の補助要件である「認定地域クラブ活動」制度を活用する。対象クラブは町の実施要綱に基づく登録に加え、国の認定要件（適切な活動時間、休養日の設定等）を遵守することが求められているので、すべての活動（愛好会やサークル、中学生主体ではないもの、一過性のものなど）を対象とするものではない。

サッカー（右表(2)）やバドミントン（右表(3)）についても、補助単価を根拠に委託費を算出している。

【補助単価（1クラブ活動当たり年額）】 ※

		月4回程度活動
(1)	参加生徒数27人以上で 指導者を3人以上配置	スポーツ：673千円 文化：691千円
(2)	参加生徒数13人～26人で 指導者を2人配置	スポーツ：576千円 文化：596千円
(3)	参加生徒数5人～12人で 指導者を1人配置	スポーツ：423千円 文化：443千円

## ②学校施設の有効活用

学校開放について、各団体や学校行事との調整を図り、効率的な利活用を図っていく。

## ③ICT活用による運營業務の効率化と専門指導

サッカーにおいては、オンラインを活用して稚内市の専門家によるゴールキーパー指導などを実施している。また、指導者と保護者等との連絡手段として、BANDというアプリを使って、クラブ内の連絡や試合の様子などを動画配信している。サッカーに限らず、他クラブにも周知することで、さまざまな手段等を講じながら、ICT活用による運営の効率化を図っていく。

## ④さらなる加速化に向けて～推進体制の整備と課題

教育委員会、中学校、各スポーツ団体、指導者、PTAなどで組織される協議会を定期的に開催し、進捗状況の共有、課題の協議、今後の方向性の合意形成を図る。

地域クラブ活動への円滑な移行と安定的な運営を支えるための基盤を構築することなども課題として見据える。